水が支える世界

盛岡中央高等学校附属中学校　三年　神山ひなた

　ＳＤＧｓのゴール六、「安全な水とトイレを世界中に」を知っていますか？最近、ＳＤＧｓテレビやインターネットなどで多く耳にすると思います。

ＳＤＧｓとは、持続的可能な開発目標です。このゴール六を具体的に説明すると、「安全な水」は「安全で安価な飲料水」のことで、「安全なトイレ（衛生環境）」とは、「誰もが排出に関して適切な処理ができる下水処理衛生施設」のことです。

二千年代に入り、安全な水の確保が大きく改善されましたが、今でも世界では、約二十億人が安全に管理された水を使用できず、また世界で約四十億人が安全に管理されたトイレ（衛生環境）を使用できていないのが現状です。安全に管理された衛生サービスを利用できないことで、下痢症で命を落とす子どもたちが多くいます。

安全な水にアクセスできない原因の一つに水不足が挙げられます。世界人口の増加により、二人に一人が水不足に直面すると言われています。そして、穀物の栽培や生産には大量の水を必要とするため、水不足になると、食糧危機を招くことがあります。水不足の影響を他に挙げると、開発途上国では水くみを行う子どもたちが学校に行けない、女性が社会で働けなくなってしまうなどの状況が起きています。つまり、水不足は飲み水の問題ではなく、多くの問題にも影響を与えてしまっているということです。

そんな水不足の原因が主に三つあります。一つ目は、水を使い過ぎていることです。世界の人口は、どんどん増えてきているので、全体の水の消費量が増えてしまうのは仕方がないことだと思いますが、そのままいくと水不足はより深刻化していきます。二つ目は、気候変動です。気候変動は、地球温暖化の影響で起こっていて、降水量が異常に減ったり増えたりしています。三つ目は、水源が守られていないことです。都市開発のための森林伐採によって水を蓄積していた森が破壊され、水源も破壊されます。他にも、生活排水や工業排水が河川や海に流れ、使えるはずだった水が使えなくなってしまいます。

こうしてみると、安全な水に世界中がアクセスできない原因、水不足の原因などが連鎖されていて、どれだけ水が生活に必要不可欠で、水に支えられているのかが分かると思います。

自分たちにできることは、料理、歯磨き、トイレ、お風呂や洗濯での水を最低限に抑えるよう心掛けることです。シャンプーや洗剤などを使いすぎないこと、油のついた食器などは洗う前に紙でふき取るなど工夫をすればもっと対策できると思います。

また、この問題がいい方向に進み、目標を達成するためには、まずこの実態を多くの人に知ってもらうことだと思います。なぜなら、この実態を知ることで、少しでも一人ひとりがその問題と向き合い意識することにつながり、目標達成への大きな一歩になると思ったからです。そして、その問題について話し合うことができたり、行動に移したりできたら、より良い方向に進むと思います。全ての人が安全な水を利用できるように、自分たちができることから対策を始めていきたいと思います。